

平成23年度 厚生労働省 先駆的保健活動交流推進事業

中堅期保健師の力量形成のための コンサルテーションプログラムの検討 (産業分野)第2報

第71回 日本公衆衛生学会総会 示説ポスター発表(平成24年10月25日:於山口)

【目的】

■働く人のメンタルヘルス対策や生活習慣病等の課題改善に向け、産業分野で働く中堅期保健師には、実践の中核的な役割と、新任教育を担える高度な能力が求められている。

■しかし、「保健師の活動基盤に関する基礎調査*」によると「中堅期産業保健師」は行政領域の保健師と比較すると、現任教育を受ける機会が少ない。

*平成21年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業 保健師の活動基盤に関する基礎調査報告書 平成22年3月日本看護協会

現任教育【中堅研修の受講経験】


中堅研修(産業分野)

◆「中堅研修」を受けていない者の割合

- ・医療保険者 68.5%(159人)
- ・企業・事業所 75.6%(526人)
- ・健(検)診センター・労働衛生機関 73.3%(333人)

◇中堅研修未受講の理由(複数回答)

- ・組織を問わず研修を受けるべき立場にある者の、7割~8割は、「研修自体がない」と回答している。
- ・その他に特徴的な回答として、「健(検)診センター・労働衛生機関」では、「業務が多忙で参加できない」の選択率が高い(約2割)



■次期リーダーの役割を担える「中堅期産業保健師育成のためのコンサルテーションプログラム(以下プログラム)」を開発することを目的とした。

【方法】-1

検討委員会の設置と内容検討

有識者による検討委員会を設置し、産業保健師の現状や社会情勢に合わせ、プログラムの目標や内容を検討した。(平成22-23年)

- (1) 平成22年度は、行政・産業分野合同の検討会を設置し、その中に産業分野の検討ワーキンググループをおいた。
- (2) ワーキンググループでは、3回の検討会でプログラムを構築し、試行し、結果を報告書にまとめた。ワーキングの内容と委員は以下の通り。

	日時	内容
第1回	平成22年9月10日 (金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none">●産業分野における中堅期保健師に必要な能力について●プログラムの進め方●参加者の募集について
第2回	平成22年10月5日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none">●プログラム案について●プログラム当日の進め方について●評価について
第3回	平成23年1月11日 (火) 15:00～17:00	<ul style="list-style-type: none">●プログラム内容と評価について●プログラム普及の方法、実施体制の検討●平成22年度報告書について

委員長	畑 中 純 子 五十嵐 千 代 齋 藤 明 子 柴 戸 美 奈 六 路 恵 子	東日本電信電話株式会社首都圏健康管理センタ 看護部長 (当時) 東京工科大学医療保健学部／準教授 産業保健実践研究センター長 ヘルス&ライフサポートTAK／代表 財団法人 福岡県すこやか健康事業団総合健診センター 健診部 健診1課／課長 全国健康保険協会本部 保健第二グループ／グループ長
-----	---	--

【方法】-2

(3)平成23年度は、平成22年度の結果をもとに、産業分野独自の検討会を4回開催し、プログラムを実施しながら内容の検討を重ねた。

検討会の内容と検討委員は以下の通り。

検討会	日時	内容
第1回	平成23年7月7日(木) 15:30～17:30	1. 実施要綱の説明 2. 受講者の選考について 3. コンサルテーションプログラムの内容と進め方について 4. 事前課題・提出物の様式について 5. 参考文献について 6. コンサルテーションプログラムの定着・普及について 7. 評価について
第2回	平成23年8月3日(水) 10:00～12:00	1. 受講者の最終決定とグループ編成について 2. コンサルテーションプログラムの内容について 3. 実践事例発表者・グループリーダーについて 4. グループワークの進め方について 5. 記入シートについて
第3回	平成23年11月7日(月) 15:00～17:00	1. 前期プログラム実施結果について 2. 前期プログラムの評価について 3. 後期プログラムの進め方について 4. 全体の評価について 5. 報告書作成について
第4回	平成24年2月16日(木) 15:00～17:00	1. コンサルテーションプログラム全体の評価について 2. コンサルテーションプログラム事業報告書作成について

委員長	畑 中 純 子	四日市看護医療大学看護学部看護学科／准教授
	五十嵐 千 代	東京工科大学医療保健学部／准教授 産業保健実践研究センター長
	齋 藤 明 子	ヘルス&ライフサポートTAK／代表
	椎 葉 倫 代	新日鉄ソリューションズ 株式会社 人事部 健康・厚生グループ／シニア・マネージャー
	柴 戸 美 奈	財団法人 福岡県すこやか健康事業団総合健診センター 健診部 健診1課／課長
	西 内 千代子	西内ヘルスコンサルティング・オフィス／代表 (日本看護協会 保健師職能委員)
	六 路 恵 子	全国健康保険協会本部 保健第二グループ／グループ長

本事業は、厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業として実施した。

【方法】-3

プログラム実施の検討

プログラムを実施するための体制や、グループワークを進めるための構成などを検討した。

(1) 現場で活躍中の産業保健師の協力

- 受講者の課題に対応し、現場での実践をテーマにグループワークを進め、共同で効果的に学びあうために、**グループリーダーには、にです、産業保健師リーダーとしての役割を担い、多方面で活躍している現場の保健師に担当を依頼した。**
- 平成23年度は、平成22年度の受講者のアンケート結果から「今年度プログラムの実施について協力可能」と回答した方に対し、本人の意向を重視しながら検討し、検討委員会で決定した。

(2) 実践課題

- **モニター(受講者)には、コンサルテーションプログラム開催前に参考文献を読むことと、積極的な取り組み参加を促すための「課題シート」の提出を課した。**
- 受講者の実践課題については、本人の了解を得たうえで、プログラムへの参加者全員で共有した。
- 実践課題はプログラム開催の約1週間前に提出することとし、記載内容を検討委員と事務局で確認した。

(3) グループワークの進め方

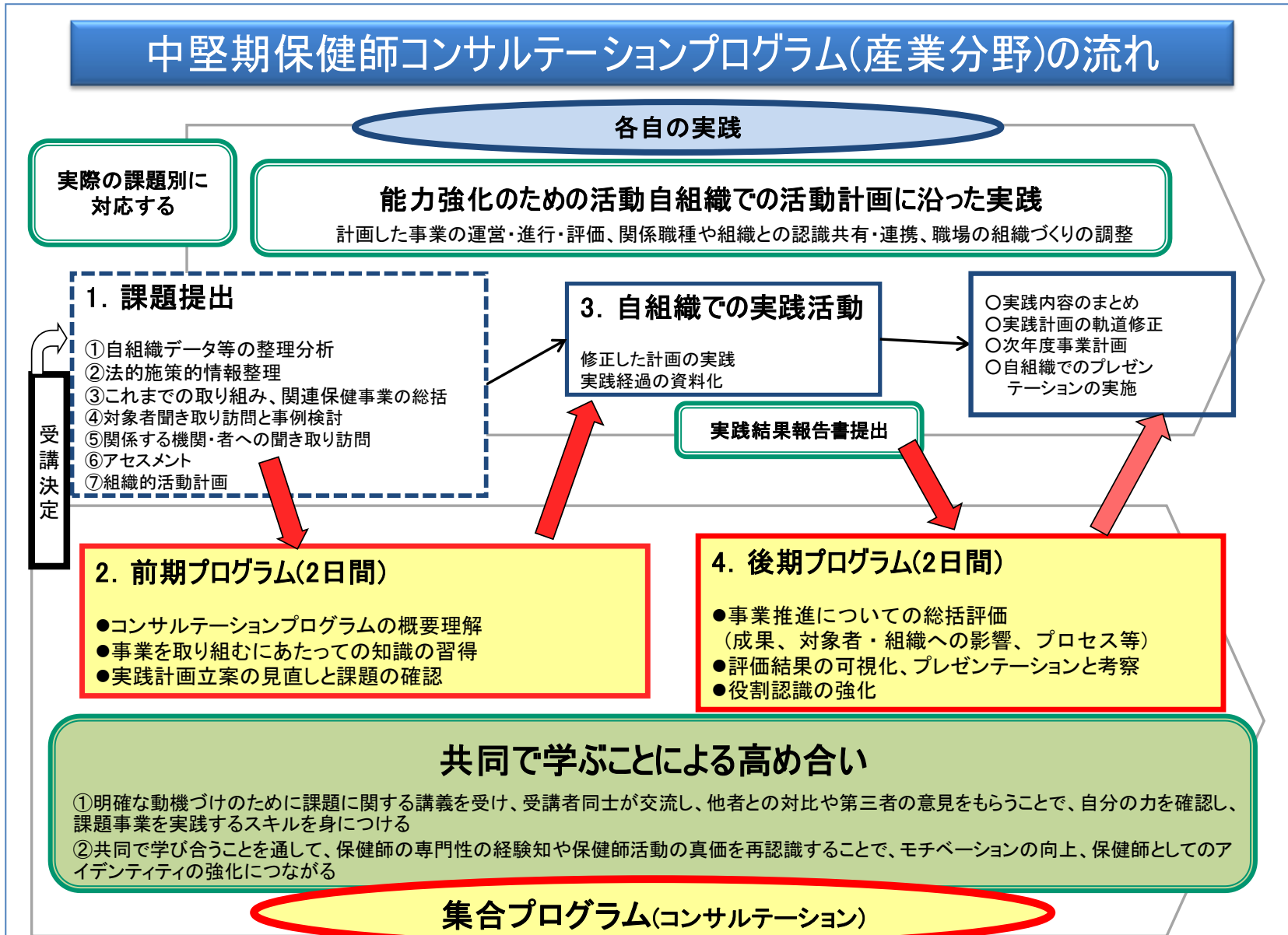
- グループワークを効果的に進めるために、「**グループワークの手引**」を準備し、グループリーダーには事前の通読を依頼した。また、**事前事後にグループリーダー会議を実施した。**
- グループ編成は、受講者の希望する「メンタルヘルス」・「過重労働」・「生活習慣病」の3テーマ別とした。
また、各グループメンバーは、経験年数や所属先に配慮し、3人から5人の受講者とグループリーダー1名で構成した。
- 進行はグループリーダーのリードのもとに、受講者の実践課題について各自が発表し、それに対するグループメンバーからの質疑応答・アドバイスなどにより、内容を共有した。

(4) 評価・アンケートの実施

- 検討委員・モニター(受講者)・グループリーダーそれぞれに評価・アンケートの記入を依頼した。

【結果】-1

➤中堅期保健師コンサルテーションプログラムが確立した。



【結果】-2

➤ プログラムのねらいと内容は以下の通り。

中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業分野)平成23年

前期プログラム

《ねらい》

- ・中堅期産業保健師の役割や活動について再確認し、産業保健実践のリーダーとしての力を自覚する
- ・自組織での活動(メンタル・過重・生活習慣病のいづれか)についての課題を構造的に捉えなおす
- ・各参加者の問題意識と役割課題や自己課題を共有する

《ねらい》

- ・課題解決のためのマネジメントや組織への提言について、理解や認識を深める
- ・得られた新たな知識や認識を自己の活動と対比させ、自己の今後の活動計画に反映させる

I. 事前課題 参考文献等を読む 事前課題記入シートを作成する



II. 前期プログラム(1日目) 10:00~17:30 (6.5時間)

神戸研修センター 平成23年9月8日(木)~9日(金) 東京JNAホール 平成23年10月26日(水)~27日(木)				
プログラムNo.	時間	形式	内容	講師・発表者等
	9:30~		(開場)	
	9:50~10:00		オリエンテーション	日本看護協会 事業開発部
	10:00~10:05		開会・関係者紹介	
1	10:05~10:30 (25分)	講演①	リーダーとしての産業保健師育成について	日本看護協会 常任理事 井伊 久美子
2	10:30~11:20 (50分)	講演②	労働衛生分野における産業保健師への期待	厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課 中央労働衛生専門官 木内 哲平
			(休憩)	
3	11:30~12:00 (30分)	講演③	地域と職域の連携と産業保健師への期待	(神戸会場)厚生労働省健康局総務課保健指導室 室長補佐 石原 美和 (東京会場)厚生労働省健康局総務課保健指導室 主査 関口 祐子
			(昼食)	
4	13:00~13:20 (20分)	講演④	産業分野における中堅期保健師のコンサルテーションプログラムのねらいと到達目標	中堅期保健師コンサルテーションプログラム 検討委員会委員長 四日市看護医療大学看護学部 准教授 畑中 純子
5	13:20~14:00 (40分)	講演⑤	公衆衛生看護の視点に立った産業保健師の役割と活動 ~健康課題の分析・整理と企画・実践・評価~	中堅期保健師コンサルテーションプログラム 検討委員会委員 東京工科大学医療保健学部 准教授 五十嵐 千代
			(休憩)	
6	14:10~15:10 (60分)	講演⑥	産業組織の特徴・構造と保健師活動 ~組織や経営を念頭にいた健康づくり活動~	(神戸会場)四日市看護医療大学看護学部 准教授 畑中 純子 (東京会場)国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 教授 荒木田美香子
			(休憩)	
7	15:20~16:50 (90分)	グループワーク	自己の課題の振り返りと共有	中堅期保健師コンサルテーションプログラム 検討委員会委員 およびグループリーダー
	16:55~17:30 (35分)	全体発表		
			(懇親会)	

II. 前期プログラム(2日目) 9:30~16:00 (5.5時間)

神戸研修センター 平成23年9月8日(木)~9日(金) 東京JNAホール 平成23年10月26日(水)~27日(木)				
プログラムNo.	時間	形式	内容	講師・発表者等
	9:00~		(開場)	
8	9:30~9:55 (25分)	実践事例発表①	生活習慣病対策と産業保健師の役割 (発表20分+質疑応答5分)	(神戸会場) パナソニック電気回路株式会社 塚田月美 (東京会場) 目黒区 田中 智恵子
9	9:55~10:20 (25分)	実践事例発表②	過重労働対策と産業保健師の役割 (発表20分+質疑応答5分)	(両会場) 株式会社日本アイ・ビー・エム 鈴木 純子
10	10:20~10:45 (25分)	実践事例発表③	メンタルヘルス対策と産業保健師の役割 (発表20分+質疑応答5分)	(神戸会場) 株式会社西日本シティ銀行 山下 珠美 (東京会場) 新日鉄ソリューションズ株式会社 植葉 倫代
			(休憩)	
11	10:55~12:00 (65分)	グループワーク・全体討議	グループ内で学び、気付きを共有する 全体で共有する	中堅期保健師コンサルテーションプログラム 検討委員会委員 およびグループリーダー
			(昼食)	
12	13:00~13:20 (20分)	個人ワーク	個々の課題の修正・加筆	
			(休憩)	
13	13:20~14:40 (80分)	グループワーク	個々の課題の修正計画の再構築を共有する	グループリーダー
	14:50~15:30 (40分)	全体発表	全体での共有	中堅期保健師コンサルテーションプログラム 検討委員会委員 およびグループリーダー
	15:30~16:00 (30分)		自組織での実践活動の進め方についてのオリエンテーションとアンケート記入	事務局
	16:00		(閉会)	



III. 自組織での実践活動 修正した計画を実践し、経過を資料化する

神戸会場受講者 9月10日~11月28日
東京会場受講者 10月28日~1月23日

中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業分野)平成23年

後期プログラム

《ねらい》

- ・自組織での実践を振り返り、力量形成につながった要件をグループで共有する
- ・課題を共有する中から、これからの産業保健活動を進めるうえでの自己課題とその解決方法について検討する

《ねらい》

- ・得られた新たな知識や認識を自己の活動と対比させ、これからの自己計画に反映させる
- ・今後の産業保健師活動において求められるリーダー像を捉え、役割課題や自己課題を再認識するとともに、本プログラム内容を生かした、社会全体を意識した実践活動への明確な動機付けにする

IV. 後期プログラム(1日目)10:00~17:30 (6.5時間)				
プログラムNo.	時間	形式	内容	講師・発表者等
神戸研修センター平成23年12月7日(水)~8日(木) 東京JNAホール平成24年2月2日(木)~3日(金)				
(開 場)				
	9:30~			
	9:50~10:00		オリエンテーション	日本看護協会 事業開発部
14	10:00~10:20 (20分)	講義	後期コンサルテーションプログラムについて	中堅期保健師コンサルテーションプログラム検討委員会委員長 四日市看護医療大学 看護学部看護学科 准教授 畑中 純子
15	10:20~11:40 (80分)	グループワーク	実践内容の報告と共有 全体発表準備	中堅期保健師コンサルテーションプログラム検討委員会委員 グループリーダー
	11:40~12:00 (20分)	全体発表	各グループでの共有した事項や課題について発表	事業開発部
(昼食)				
16	13:00~13:30 (30分)	実践内容発表①	実践内容発表 生活習慣病対策 (発表20分+質疑応答10分)	事例提供者①
17	13:30~14:00 (30分)	実践内容発表②	実践内容発表 メンタルヘルス対策1 (発表20分+質疑応答10分)	事例提供者②
18	14:00~14:30 (30分)	実践内容発表③	実践内容発表 メンタルヘルス対策2 (発表20分+質疑応答10分)	事例提供者③
(休 憩)				
19	14:40~15:00 (20分)	個人ワーク	自己の今後の課題・計画	中堅期保健師コンサルテーションプログラム検討委員会委員 グループリーダー
	15:00~16:20 (80分)	グループワーク	実践内容発表に関する質問や意見など 自己の今後の実践計画について課題を深める	中堅期保健師コンサルテーションプログラム検討委員会委員 グループリーダー
	16:20~16:40 (20分)	全体発表	全体での共有	事業開発部
(休 憩)				
20	16:50~17:30 (40分)	質疑応答 全体討議		事業開発部

IV. 後期プログラム(2日目)2日目 9:30~16:00 (5.5時間)				
プログラムNo.	時間	形式	内容	講師・発表者等
神戸研修センター平成23年12月7日(水)~8日(木) 東京JNAホール平成24年2月2日(木)~3日(金)				
(開 場)				
	9:00~			
21	9:30~10:10 (40分)	講演	産業保健に関連する社会動向と、これらを踏まえた組織提言について	(神戸会場)財団法人福岡県すこやか健康事業団保健事業部 課長 柴戸 美奈 (東京会場)ヘルス&ライフサポートTAK 代表 齋藤 明子
(休憩)				
22	10:20~12:00 (100分)	グループワーク	次代を担う産業保健師のあり方とその役割 ・社会の動きに対応した産業保健師としての戦略的取り組みについて ・中堅産業保健師としてのリーダーシップとネットワークについて	中堅期保健師コンサルテーションプログラム検討委員会委員 グループリーダー
(昼食)				
23	13:00~14:30 (90分)	全体討議	各グループから、話し合われた内容についての発表 全体での意見交換	事業開発部
(休憩)				
24	14:40~15:40 (60分)	全体討議	受講生からのプログラムについての評価 意見交換	事業開発部
	15:40~15:55 (15分)		閉会挨拶	日本看護協会 常任理事 井伊 久美子
			評価表とアンケート記入	
	16:00			(閉 会)

モニター(受講者)について

以下要件をてべす満るいてした者50名程度を公募した。

- 産業保健活動の現場経験概ね10年以上の保健師
- 現在、企業・健康保険組合・労働衛生機関等に所属とこるいてし
- 自組織の産業保健活動の展開に留ずらま、今後、他組織のへ協力助言等 幅広く活動るきで意向とこるあが



【結果】-3

➤中堅期保健師に必要な能力と、能力強化のための到達目標は以下の通り。

(表1) 中堅期保健師に必要な能力と、能力強化のための到達目標

必要な能力	到達目標
作業関連疾患を分析して展開する能力	1)メンタルヘルス対策について、データの分析から、取り組むべき課題や対策について、具体的に展開できる
	2) 過重労働対策について、データの分析から、取り組むべき課題や対策について、具体的に展開できる
	3) 生活習慣病対策について、データの分析から、取り組むべき課題や対策について、具体的に展開できる
職場における健康課題や体制作りに関するマネジメントについての組織内外に提言する能力	1) 中堅期保健師に期待される役割について理解している
	2) 個人や集団に対し、組織的に取り組むためのニーズ把握、情報提供や助言の実際について理解している
	3) 関係者・関係部署との情報共有・意思疎通を図っている
健康づくりの視点からの、経営方針・CSR (Corporate Social Responsibility)に関する提言能力	1)企業におけるCSRの必要性和意味付けについて理解している
	2) 産業保健師の果たすべき役割を理解している
	3) 労働安全衛生体制の維持向上、及び労働者の健康づくりについて、経営層などへアプローチする重要性を理解している

➤プログラム修了者は以下の通り。

	平成22年度	平成23年度
応募者	58名	50名
修了者	57名	45名
修了者の割合	98%	90%

* 集合プログラム24時間のうち3/4の出席を持ってプログラムの修了者とした。

* 修了しなかった方の理由は、本人または家族の病気・介護のためだった。



【結果】-4

➤ 自己評価・アンケート結果から

- 本プログラムは、受講者自身が自らの業務を総括し客観的に見つめなおす機会となった。
 - 自組織での実践を通し、受講者は、自身に不足している知識や取り組みに気付いた。
 - 受講者の事前事後の自己評価結果では、「経営方針・CSRに提言する能力」「産業保健師の役割」「中堅保健師の役割」などの項目においてスキルは上昇した。
 - 「組織の中で産業保健に関する課題に取り組んでいくためには、周囲の関係者の理解と協力を得ながら進めることが大切」、「わかりやすい資料を示すことの効果は大きい」ことを体験した。
 - 一方、受講前に「るいてきで」と回答のものもたし、受講後に理解の度合いが低下たし受講者が数名いた。「できていたつもりだったが実際たっかわがとこたっかないてきでは」という理由だった。
- モニター(受講者)トークンア、グループリーダーの評価、検討委員会による総合評価らか、のムラグロブ目的や方法は妥当と評価した。

【考察】

➤ 中堅期産業保健師のてしと力量を高はにめたるめ、受け身ので講義受講
ずらまどとに、**自のら実践を振り返らかなり、他者の実践もどな参考に具
体的な業務実践計画を進がとこるめ重要**である。

- 受講者が自ら「成長した」と実感するためには、
- ①受講者自身が、存在する様々なデータを見直し、
 - ②関連する法や文献に当たりながら、
 - ③これまでの実践を振り返り、
 - ④講義や他者の意見・実践を参考に自身の課題を見出して、
 - ⑤今後の自己計画を練り、
 - ⑥実践し、
 - ⑦さらにその結果を評価し、
 - ⑧文章化する。

という一連の**「体験をする」**ことが重要であることが明確となった。
理論と経験に裏打ちされた自信が備わったことが垣間見られた。

➤ 本プログラムにおいて、各々が**新たな気付きを得ていくには、経験年数や
組織形態等共通部分の多いメンバーで構成するグループの力と、グルー
プ全体に配慮しながらも受講者個々の課題解決の糸口を引き出すグルー
プリーダーの活躍が有効**である。

【残された課題】

- 労働安全衛生法一部改正の動きを受け、働く人々のメンタルヘルス対策強化に合わせたプログラムの実施が肝要であるなど、現場での実践能力を育成し強化するためには、今後時代や政策に合わせた継続的な教育が必要である。今後は、新任期からの継続的な現任教育の構築と、一人職場の保健師でも教育研修を受けられるような、産業保健師を取り巻く環境や体制の整備が求められる。
- 平成24年度からは、これまで構築した実績をもとに、日本看護協会の継続研修として産業保健師の研修を開催している。
産業分野に働く保健師が、組織内外ていおに、働く人々の健康と安全を守り支援一ダ—りるす的な役割を果よるけいてしたう、今後も支援が重要と考えられる。



これらの検討に関する報告書のご案内:

日本看護協会公式ホームページ <http://www.nurse.or.jp/>

平成23年度先駆的保健活動交流推進事業
保健師活動強化コンサルテーション事業 報告書
中堅期保健師コンサルテーションプログラム(産業分野)